

# 穂別の化石を「むかわ竜」とするのを止す

ニュース  
第4号

「ニュース3号」で、「むかわ竜」との名を正さなければならぬ第1と第2の二つの理由を紹介しました。この4号では第3の理由を紹介します。

Ⅱ「むかわ竜」の名を正さなければならない理由の3つ目はⅡ

**むかわ町が命名の根拠にあげてくることが事実と違っていることです**

「丹波竜やみふね竜が市町村名（自治体名）を冠した名」とか  
「先進的な事例では自治体の名称が付けられていることが多い」

**と言っているのは、事実ではありません**

町は、今年3月の議会で、「先進的な事例では、自治体の名称が付けられている事が多い」と説明しています。そうして、今年の広報4月号で、「呼び名を『むかわ竜』としましたが、通称名や総称名として学名などの取扱いについて不明な点がありましたことから、広報折込版の紙面に、改めて町民のみなさんにご説明申し上げております。」と、広報折込版で、「全国の恐竜先進地の事例を調査したところ自治体の名称が付けられていることが多く」と町民に説明しました。その後、9月27日に発行した「むかわ

**「丹波竜」の丹波は、兵庫県から京都府にまたがる地名に由来したものです**

そもそも「丹波竜」と命名したのは、丹波市でなく、第一発見者の足立冽氏と村上茂氏です。

長年にわたって化石の調査を続けてきた丹波市在住の元教員・足立冽氏とその友人である村上茂氏が、2006年8月に、丹波市山南町の篠山層群の地層から発掘したのが「丹波竜」化石の始まりです。そのこともあって、「丹波竜」の通称は足立氏と村上氏によって付けられました。

お二人は、「丹波竜」の通称について次のように言っています。

「当初は、他の例等を参考に地元の名を冠した上滝竜、あるいは町名である山南町から山南竜なども考えたが、丹波市民のみならず、篠山市や京都の丹波地方までも含んだ多くの地域の人々にも親しんでもらえるのではないかという点と語呂の良さを考慮して最終的に丹波竜にした」と。

**「みふね竜」も、「町村名を冠した」とは言えません**

「みふね竜」は、高校教員の早田幸作氏が1979年8月に息子さんと化石採集を行っている時に発見したのが最初です。1990年に研究者によって「ミフネサウルス」との名で紹介されていますが、学名はまだありません。

「みふね竜」の由来について、当時のことに詳しい御船町の人達は、「誰が、どのような由来で命名したかは定かでないが、当時は、日本で恐竜化石の発掘が始まった時期で、それらに地名の愛称が付けられていた。そこで、自然に『みふね竜』と呼ぶようになったと思う」と話しています。

確かに、1968年に福島県いわき市で発掘された「フタバスキリュウ」は、発掘された地層の双葉層群と発掘者の鈴木直氏の名に由来したものです。1978年に岩手県岩泉市茂師で発掘された国内最初の恐竜化石は、地名に由来した「モシリユウ」です。1981年群馬県中里村で発掘されたサンチュウリュウは、発掘された地層の山中地

竜かわら版第6号」で、「なぜ『むかわ竜』なの？」との囲み記事を載せ、「恐竜発掘地の自治体である兵庫県丹波市の『丹波竜』や熊本県御船町の『みふね竜』といった先進例も、市町村名を冠した呼び名（和名）としているところが多くありました。」としています。

しかし、ここで言っている「丹波竜」も「みふね竜」も市町村名を冠したものではありません。「先進的な事例では、自治体の名称が付けられている事が多い」と言うのも事実ではありません。

（フリー百科事典・ウィキペディア）から）  
ここから明らかのように、「丹波竜」の丹波は、丹波市の丹波ではありません。

なお、お二人は、「あるいは町名である山南町から山南竜なども考えた」とおっしゃっていますが、丹波市は2004年11月に山南町を含む7つの自治体が合併して現在の丹波市になっていますから、「あるいは町名である山南町から山南竜なども考えた」言っているのは、自治体名の山南町ではなく、丹波市山南町と言う発掘した地名の山南町です。また上滝は、丹波市山南町上滝の地名です。

むかわ町で言えば穂別や稲里に該当するものです。命名の過程で、「市町村名（自治体名）を検討した」などとはひと言も言っていない、上滝や山南、丹波の地名のみが検討の対象だったのです。

溝帯の名に由来しています。1982年

福井県勝山市で発掘された福井県最初の恐竜化石はフクイリュウです。すべて地名や地層、発掘者名に由来して市町村名（自治体名）は一つもありません。

「みふね（御船）」の名は、御船町ができる数百年も前からある地名で、後で述べるように、景行天皇（ヤマトタケルノミコトの父）が九州を平定した際に、「その御船（おんふね）が着岸したことによって名付けられた」と伝えられている由緒ある地名です。そのうえ、「みふね竜」の化石が発掘された地層は御船層群と言います。

地名も地層も御船です。

ですから、早田氏は熊本市の方ですが、「みふね」の名は、古くからの地名と地層から自然に付けられたもので、「町村名を冠した名」とは言えません。

町外から化石の里ほべつを応援する穂別出身者の会（略称：化石の里ほべつを応援する会）

2017年12月15日

連絡先：☎・FAX 011-385-8368 田中弓夫

このように、「丹波竜」も「みふね竜」も「市町村名（自治体名）を冠する名称にした」ものではありません。むかわ町が「先進的な事例では、自治体の名称が付けられている

る事が多い」と言つて、「丹波竜」や「みふね竜」をあげているのは間違いです。また「先進的な事例では、自治体の名称が付けられている事が多い」と言っているのも間違いです。

「丹波」も「みふね」も、丹波市や御船町ができるずっと前からある地名で

これを参考にしているのなら穂別の名があたりまえで、「むかわ」になる道理はありません

日本では、701年の大宝律令で初めて「国、群、里」の地域の単位が決められますが、それ以前から丹波国造氏が現在の京都府の中部と北部、兵庫県の北部、大阪府の一部を含んだ地域を支配していました。その後、大宝律令で丹波国と但馬国に分割されるのですが、丹波の名は、足立氏と村上氏がおつしやるように古代から使われていた由緒ある地名です。

一方の御船の名も、御船町ができるずっと以前から、この地域にある由緒ある地名なのです。御船町は1879年の「郡区町村編制法」によつて発足し、1955年に8町村が合併して

このように、丹波も御船も由緒ある地名です。

もし、これらを参考にするのなら、20世紀の初頭から日本の化石研究に地名が現れ、地域の人が七十年もの時を重ねて、全国に「化石の里ほべつ」として知られるまでにつくりあげた地―「穂別」の名こそふさわしいのです。そのうえ、丹波市も御船町も恐竜化石が発掘されてから博物館を建設し

ましたが、穂別は恐竜化石発掘の21年も前に博物館を建設し、この博物館があったことで、堀田良幸氏の貴重な発掘が恐竜に結びついたのです。小林快次准教授は「誰1人欠けても発見できなかった」と言っています。地層もなく、最初に発掘された時にはなかった「むかわ」の名になることは考えられません。

恐竜化石の発表を喜び、関心を寄せる全ての方々に呼びかけます

「むかわ竜」の名がふさわしいのかどうかを考え、身近な人達と話し合つて下さい

化石の研究は、時間をかけた発掘と研究を積み重ね、人類が現れる以前の太古の世界を想い描き、解き明かす気の遠くなるような努力を積み重ねる世界です。また、その事を通して、地球と人類の今後を考えます。そのことに、世代を超えた多くの方々がロマンを感じ、愛好者が広がるのだと思います。ここには、徹底した調査に基づく事実と、研究を大切にする精神があります。

命名の根拠になる説明が事実と違っているのは、この化石に関わる人達が最も大事にする精神を損なつた点で重大です。

私たちが話した人たちの中には、「町名を冠するのが普通なら、合併してむかわ町になつたから仕方ない」と思つていた人が少なからず居ました。町は、議会と町民への説明で、「今後、様々な事情で通称名が変わることは考えられる」と言っていますが、命名の根拠が事実と違うことは、ここで言う「様々な事情」に該当するのではないのでしょうか。私たちは、「むかわ竜」の命名に関与した人達も含め、「恐竜化石の発表を喜び、関心を寄せる」すべての人たちが、「むかわ竜」の名で良いのか、真剣に考え、話し合うよう呼びかけます。

各地で通称がどのように検討されて決められているのかをありのままに調べたら、このような間違いが起ることはありません。では、このようなとんでもない間違いがなぜ起き、議会や町民に伝えられたのでしょうか。

(この続きは1月発行の第5号に掲載します)

署名は11月末迄に1362筆（むかわ町以外の人たちから）寄せられました。

道内の46市町村と道外の15都府県から寄せられています。

11月末の署名の集約は1362筆でした。署名した人が居る道内の市町村と道外の都府県は左記のとおりです。

室蘭市	伊達市	登別市	白老町	苫小牧市	安平町	洞爺湖町	平取町	浦河町	新冠町	えりも町	千歳市	恵庭市
北広島市	札幌市	江別市	石狩市	当別町	小樽市	倶知安町	留寿都村	函館市	夕張市	岩見沢市	新十津川町	
砂川市	赤平市	妹背牛町	滝川市	歌志内市	深川市	奈井江町	芦別市	上砂川町	浦白町			
由仁町	旭川市	名寄市	紋別市	北見市	斜里町	釧路市	釧路町	羅臼町	芽室町	広尾町		
青森県	岩手県	福島県	茨城県	千葉県	群馬県	埼玉県	東京都	神奈川県	京都府			
大阪府	奈良県	和歌山県	広島県	福岡県								

\*、ニュース3号の訂正です。「街路樹は、生きた化石と言われるナタセコイヤの樹」は「メタセコイヤ」です。

「岳蓉子氏は、お兄さん（野見良治氏）が・・・、岳さんの家に」の「兄」は「弟」、「岳さんの家」は「野見さんの家」

署名は11月末3回目の集約です。手紙の署名は11月15日迄にお願いします

集約結果は1月15日付けニュースで紹介します。毎月末の集約ですので4回目の集約は1月末です。

\*署名用紙や呼びかけ文、ニュースが必要な方は、電話などで連絡ください。自分でコピーしてもかまいません。